

## 糖尿病治療の最前線

# ストレスによる悪化を招いた「50歳の壁」

雇用問題で不安を抱え、数値が悪化したSさんのケース



担当医 久保 明先生

医学博士 糖尿病内分泌専門医  
医療法人財団百葉の会 銀座医院  
院長補佐・抗加齢センター長

患者氏名	S・K様	年齢	52歳	性別	男性	現病歴	2型糖尿病 脂肪肝 肥満
------	------	----	-----	----	----	-----	--------------

**ス** トレスが血糖コントロールを悪くすることは知られていますが、それが顕著に表れたのがSさんでした。2年前Sさんを診断した際のヘモグロビンA1cは7.2%、血糖値は140mg/dl。高め安定といったところでした。ところが翌年になって、コントロールが急激に悪くなり、ヘモグロビンA1cは8.5%、血糖値は196mg/dlにまで上がってしまいました。どうやらお勤めの会社で雇用問題が発生し、それが大きなストレスとなってしまったようです。

多くの企業では、50歳を境に給与が下がったり、子会社への出向を命じられたり、雇用のあり方が変わってくるといわれています。最悪の場合には、リストラの危険性もあります。どうやらSさんもこうした「50歳の壁」にぶつかったようでした。

家族を抱えての先行き不安や老後の不安などで精神状態が不安定になり、飲酒や過食に走ってしまったSさ

ん。脂肪肝を示す数値も悪く、血糖値の上昇とともに肝機能も低下しました。景気回復が遅れる中、雇用形態の変化は大きな社会問題となつていますが、ここまで患者さんの健康状態に影響するのかと、私自身驚いた次第です。

その後、雇用問題も解決に向かったのでしょうか。ストレスから解放されたSさんは、散歩などの軽い運動をする余裕も出てきたようで、それに伴い、数値も落ち着いてきました。さらに、血糖値の低下とともに、脂肪肝の数値も徐々に良くなってきました。

ちなみに、脂肪肝の原因の多くはアルコールですが、糖尿病の方はアルコールによらないNAFLD（ナツシュ）という脂肪肝になりやすいことがわかってきます。脂肪肝は肝硬変や肝臓に発展する危険性があります。飲酒の習慣のない方も、肝機能の検査を定期的に受けるようにしましょう。